

広島大学短期交換留学プログラム HUSAインターンシップ

INTERNSHIP
for
INTERNATIONAL EXCHANGE STUDENTS



広島大学短期交換留学プログラム
Hiroshima University Study Abroad Program (HUSA)

「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA) インターンシップの新しい展開」

<留学生教育学会・短期留学特別プログラム分科会第3回会合>

2010年3月30日 大阪大学

- 広島大学 国際センター・国際教育部門 (2010年4月より)
恒松直美 (つねまつなおみ)

「HUSAインターンシップI: キャリア理論と実践」

「HUSAインターンシップII: 実習」

<連絡先>

TEL/FAX 082 424 6279

東広島市鏡山1-1-1

Email: ntsunema@hiroshima-u.ac.jp

広島大学短期交換留学プログラム

Hiroshima University Study Abroad (HUSA) Program

<http://husa.hiroshima-u.ac.jp/english>

HUSAインターンシップの展開

- 「広島大学短期交換留学生向けインターンシップ」を2003年度に開講
- 2003～2008まで：日本語上級のみ対象
- 2009年度より ：日本語中級・上級
(派遣は上級のみ)

* 短期交換留学生により幅広く開講

HUSAインターンシップ I : キャリア理論と実践

HUSA Internship I: Career Theory and Practice

[日本語中級・上級者向け]

- 担当教員: 恒松 直美(つねまつ なおみ)
- 対 象 : HUSAプログラム交換留学生で
日本語中級(レベル3&4)または
日本語上級(レベル5)
- 教授言語: 講義・プレゼンテーションは**主に日本語**
(学生の必要に応じて**英語も使用**)
- 単 位 : 2単位
- 目 的 :
 - 日本語能力を**実践の場**で活かせるよう向上させる
 - 日本社会についての理論的理解を実践に活かす準備
 - 大学教育を将来の**キャリア構築**と関連付ける
 - 自分を知り**キャリアデザイン**を考える
 - **コミュニケーション能力**の向上

インターンシップ I: 授業内容 (日本語: レベル 3, 4, 5) 共通内容

- Week 1 コース概要説明・インターンシップの意義・「職業」と自己
- Week 2 挨拶と名前の呼び方
- Week 3 名刺の受け渡しと席次・名刺作成
- Week 4 電話応対
- Week 5 電子メール・ファックスのマナー
- Week 6 就職活動体験者による講話
- Week 7 指示の受け方・勤務中のルール
- Week 8 報告書・手紙の書き方
- Week 9 礼状の書き方
- Week 10 自己アピール・履歴書・エントリーシート
- Week 11-15 企業体験者による講義
- Week 16 プレゼンテーション

日本語レベル 3 &4

- 第1週~第15週

日本人学生と共同研究プロジェクト

調査したいトピックについて、ボランティアの学生と研究プロジェクトに取り組む

- 第16週

共同研究プロジェクト・プレゼンテーション

日本語レベル 5

- 第1週~第15週

電子メール・報告書・レターなどの書き方を学ぶための課題提出

- 第16週

日本語レベル3 & 4の学生が行うプレゼンテーションに参加→ フィードバック

HUSAインターンシップⅡ：実習

HUSA Internship II: Practicum

(日本語上級：**レベル5のみ**)

- 担当教員：恒松 直美(つねまつ なおみ)・堀田 泰司(ほった たいじ)
- 教授(実習)言語：日本語
- 対象：HUSA留学生で日本語上級レベル(レベル5)の学生
- 単 位：2単位
- 期 間：冬季休暇(12月下旬)・春季休暇(2月中旬～3月下旬)・
夏季休暇(8月)
- 目 的
 - 「HUSAインターンシップⅠ：キャリア理論と実践」で学んだことを実践で活かす
 - 国際的視野からのキャリア構築を目指す
 - 東広島の企業・官公庁において短期の就労体験を持つ
- 必須条件：「HUSAインターンシップⅠ：キャリア理論と実践」の受講



「インターンシップ事前研修」



「研究発表：翻訳者になるには」



「研究発表：日本企業の意味決定」



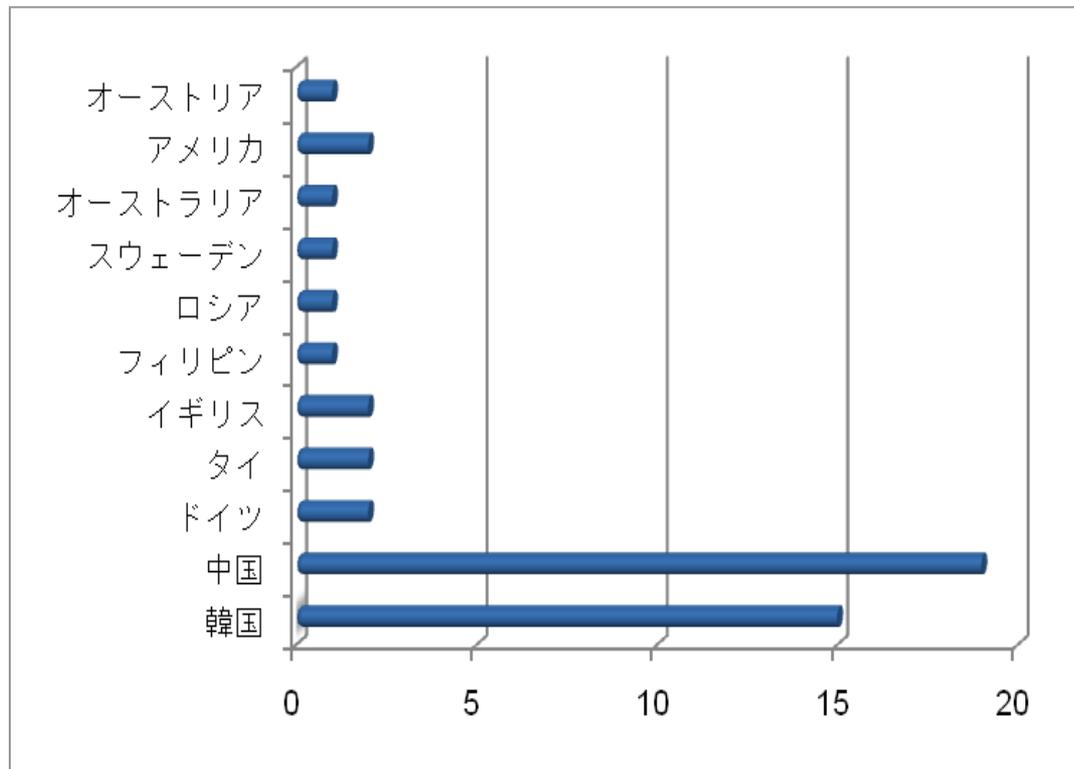
「派遣先企業との顔合わせ」



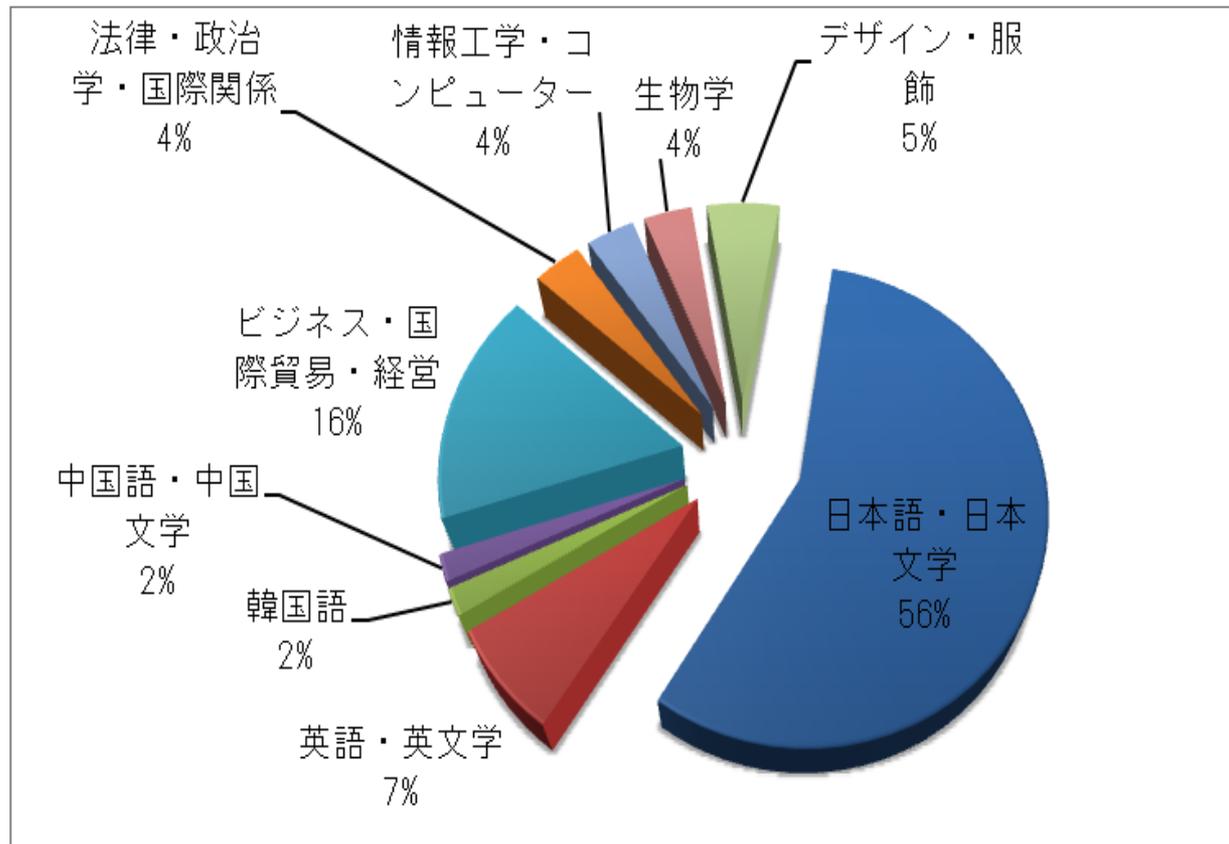
「受け入れ企業との交流会」

HUSAインターンシップに関するデータ

インターン派遣留学生・国別人数 (2003-2009)



インターン派遣留学生・専攻別数 (2003-2009)





「HUSAインターンシップ」 広島大学短期交換留学プログラム留学生向けインターンシップ アンケート調査

- インターンシップの改善を目的とし、アンケート調査(支援団体である広島経済同友会広島中央支部のメンバーを対象)

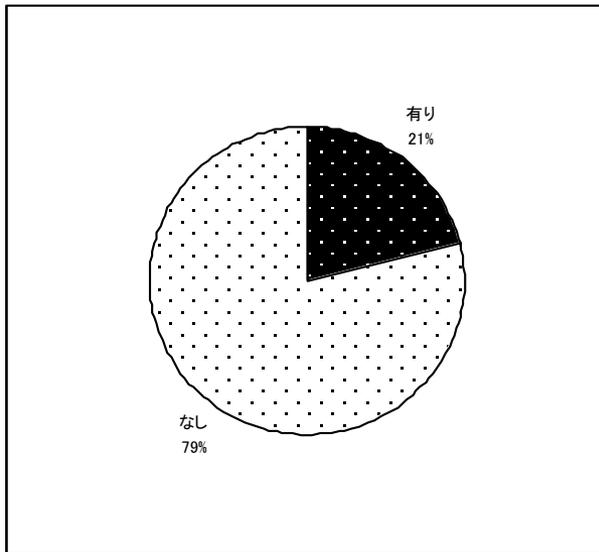
- 実施期間 : 2010年1月～2月
 - 配布数 : 69件
 - 回答数 : 29件
 - 回収率 : 42%

<インターンシップの概要>

- 実施期間:
8月上旬の10日間
- 実施内容: 一般のインターンシップと同じ
- 実施人数: 年間あたり
5～10人
- 語学力: 日本語上級
- 出身国:
全世界の協定大学からの
交換留学生(パンフレット参照)

インターン留学生受け入れの有無

Q1. 広島大学短期交換留学生インターンを受け入れたことがありますか。



•毎年同じ事業所が受け入れている関係から、受け入れる事業所は固定化されているため、「有り」は5分の1と少なく、広がりが見られない。

「有り」: 受入実績のある事業所

- Q3. インターンを受け入れてよかった点
全事業所が「良かった」と回答した。

大変良かった	0
良かった	100%
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
- Q6. 留学生の指導にあたっての担当者の数
全事業所が1~2人であたっている。

1人	57%
2人	43%
- Q8. 留学生をアルバイト等で雇用できる可能性
全事業所が「いいえ」と回答した。

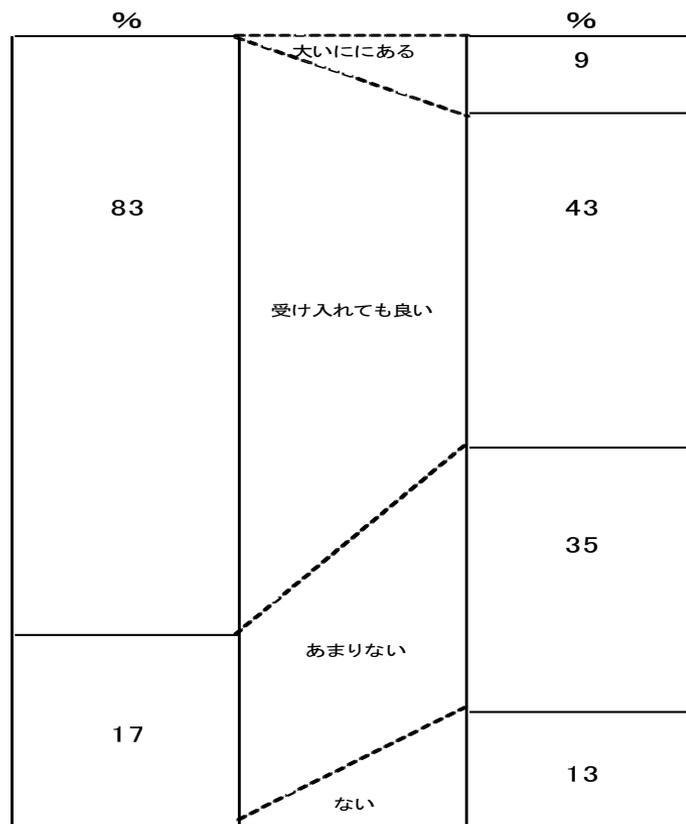
可能性あり	0
既に雇用した実績あり	0
いいえ	100%

受入実績のある事業所 VS. 受入実績のない事業所（継続・興味）

図1

受入実績のある事業所

- Q7. 今後もインターンを受け入れたいと思いますか。
- 受け入れた事業所は今後も継続するとの回答が多い。
- 両極（大いにある、ない）の回答は0であった。
- 受け入れた事業所からはインターンシップに対する好意的な理解を頂いている。



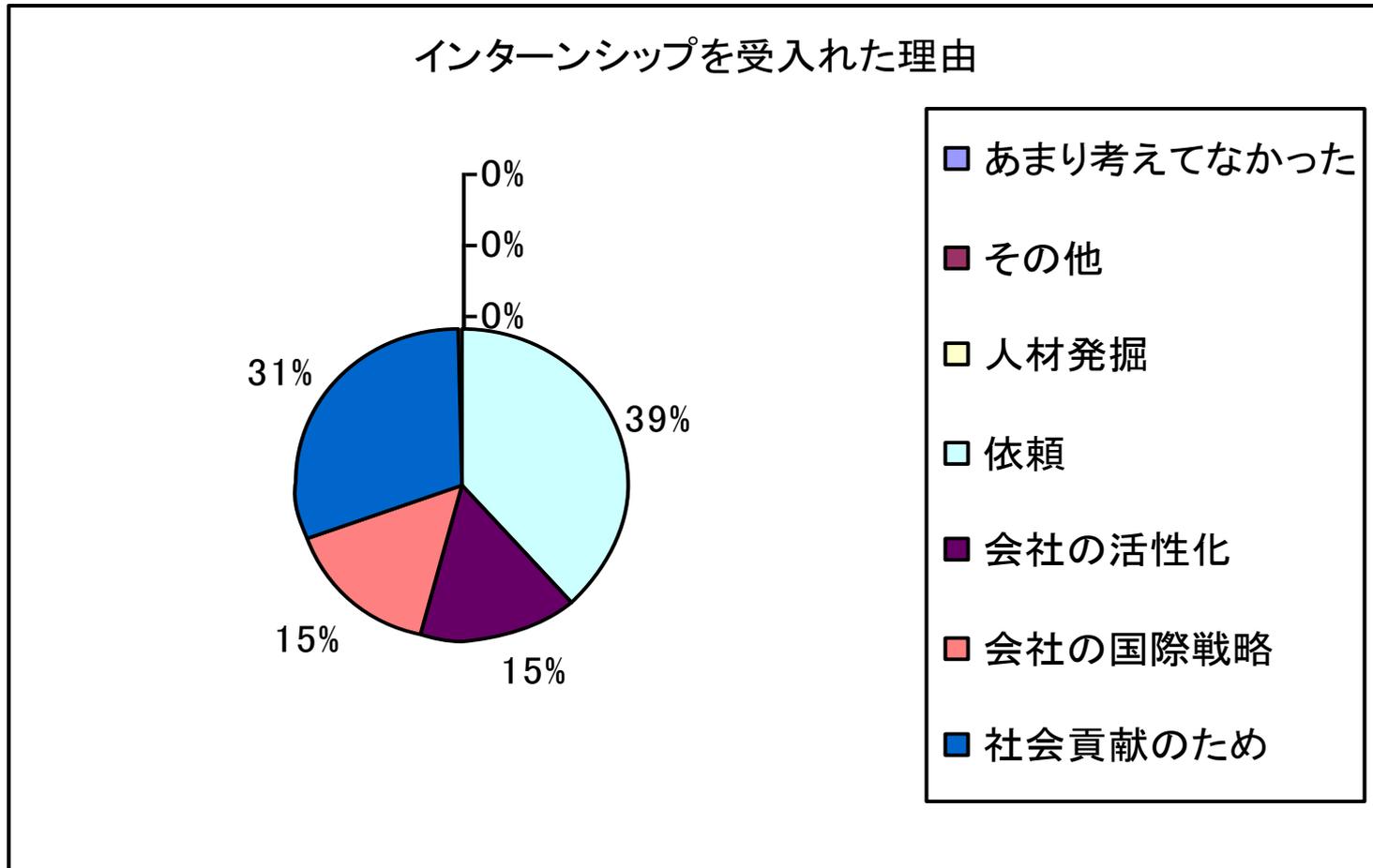
受入実績のない事業所

- Q9. インターンの受け入れについて興味がありますか。
- ほぼ2分された回答である。
(ある:52% ↔ ない:48%)
- 興味がある事業所へは、働きかけをしていく必要がある。
- 一方、半数は、あまり興味がなく、インターンシップに関する**情報不足**の面も考えられる。

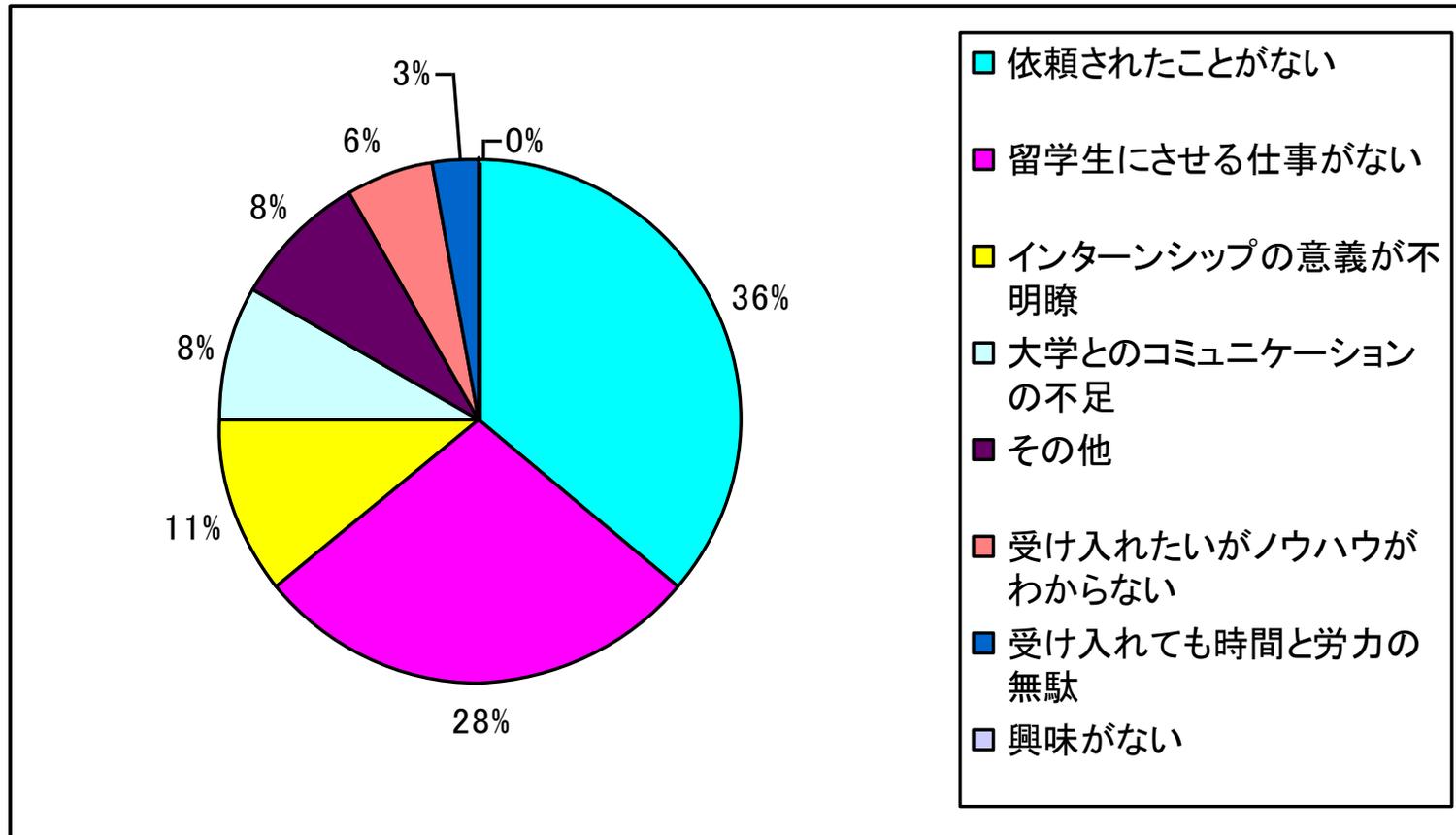
<比較>

受入実績のない事業所より、受入実績のある事業所の方が、前向きな回答が多いことから、このインターンシップ制度は、**一定の評価を得ており、定着している**と考えられる。

Q2. 留学生を受け入れた理由 (受入実績のある企業)



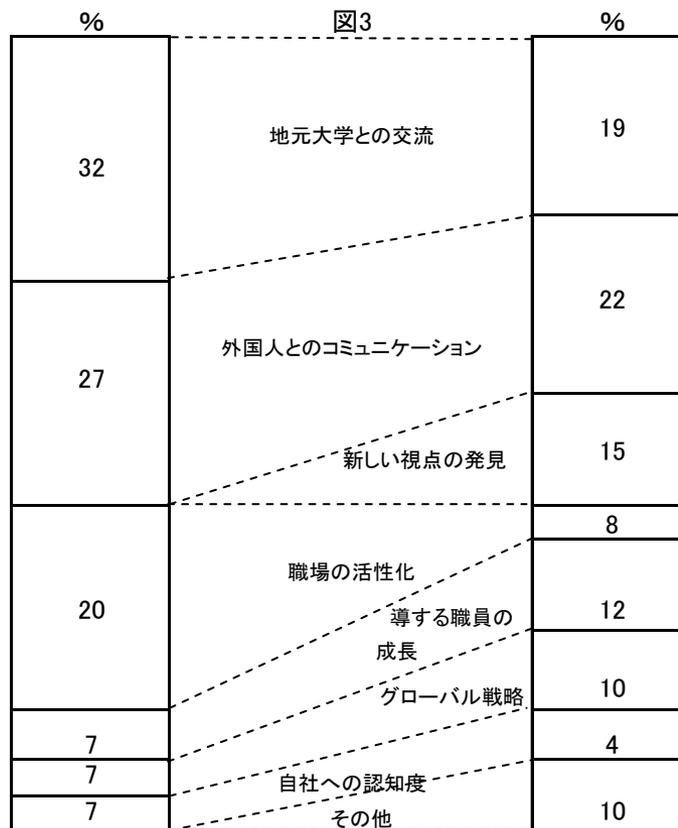
Q10.留学生のインターンを受け入れたことがない理由(受入実績のない企業)



受入実績のある事業所 VS. 受入実績のない事業所(良かった点)

受入実績のある事業所

- Q4.留学生インターンを受け入れてよかった点
- 上位3項目「地元の大学との交流」「外国人とのコミュニケーション」「職場の活性化」で、約80%を占めており、明確な成果が表れている。
- この3項目以外については、これまでの体験からあまり期待できないことが読み取れる。



<比較>

上位2項目は、両者とも同じであるが、3番目に、受入実績のある事業所は「職場の活性化」が高く、受入実績のない事業所は、「新しい視点の発見」が高く表れたのが大きな相違点である。今後、受入実績のない事業所が、受け入れた場合には、同様(上位3項目へ集約)になると思われる。

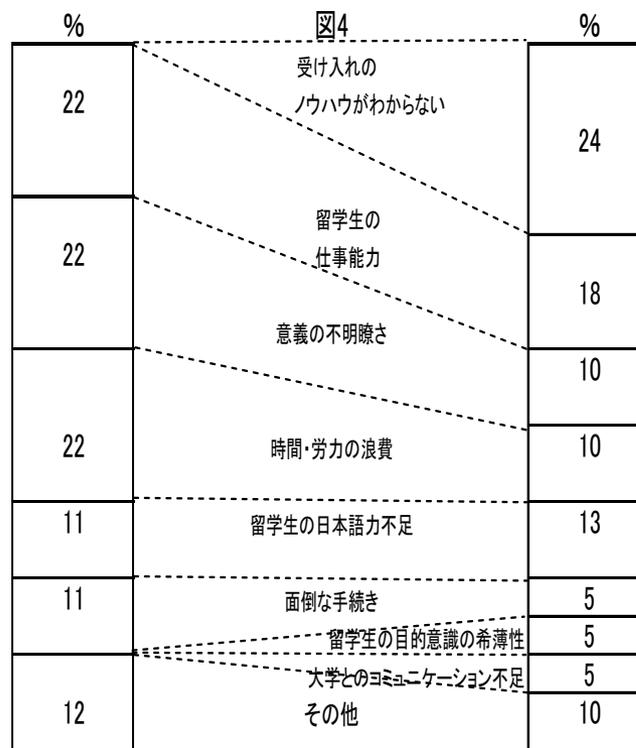
受入実績のない事業所

- Q11.留学生インターンを受け入れた場合のメリット
- 「地元の大学との交流」「外国人とのコミュニケーション」に続いて、「新しい視点の発見」が多く、新しい試みに対する前向きな姿勢がみられる。
- 設問項目に、まんべんなく回答がちらばっているのは、まだ受け入れてないためと思われる。

受入実績のある事業所 VS. 受入実績のない事業所(困難な点)

受け入れ実績のある事業所

- Q5.留学生インターンを受け入れて困難だった点
- 上位3項目「留学生の仕事能力」「意義の不明瞭さ」「時間・労力の浪費」で、3分の2を占めており、受け入れた事業所の努力が伺われる。
- その他の項目については、大きな問題にはなっていない。



受入実績のない事業所

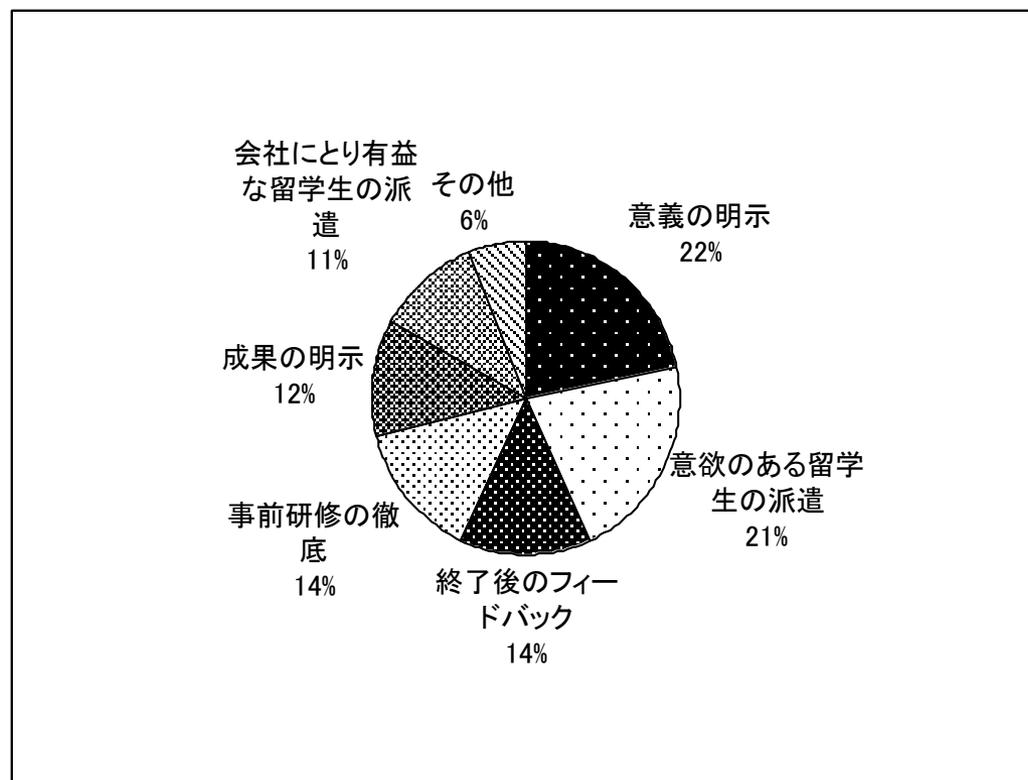
- Q12.留学生インターン受け入れで予想される困難
- 一番に「受け入れのノウハウがわからない」があがっているのは、当然のことである。
- 次に「留学生の仕事能力」が多いが、3番目以降はほとんど同列である。
- 受け入れていない事業所なので、多項目に渡って困難さを感じるのはやむを得ない。

<比較>

- 両者ともに、「留学生の仕事能力」が上位にあるが、それ以外では傾向が分かれた。「意義の不明瞭さ」「時間・労力の浪費」は、受入実績のある事業所が2倍以上多く、「受け入れのノウハウがわからない」は受入実績のない事業所からのみの回答である。
- 受入実績のない事業所にとっては、この結果が受け入れる際の参考となることは間違いない。

Q14.有能な留学生に社会勉強の場を提供するための大学の役割（全事業所）

- 「意義の明示」「意欲のある留学生の派遣」が20%台で多いが、総じてどの項目にも必要性が求められており、このインターシップは大学がその役割を果たすことが前提である。



－ 自由記述 －

- 相互のメリットをアピールすると協力しやすい。
- インターンシップの受け入れについて事前に打ち合わせが必要(予備知識)。
- 終了後に実習生の方が、企業についての発表や報告されるのであれば、その資料を送ってほしい。
- 他大学の留学生のインターンシップを受け入れたことがあるため、受け入れにはできるだけ協力したい。
- メリット・デメリットで考えるものではなく、現在の社会状況では受け入れは当然だと思う(納税義務と同じ位の感じ)。
- 受け入れても対応が困難。
- 業務は留学生に扱わせる内容ではない。

－ 改善点の集約 －

- 1) インターンシップは、受入実績のある事業所では好意的が83%あり、受入実績のない事業所でも前向きが52%あり、基本的には評価されている。
- 2) 受け入れの理由としては、「**依頼**」がキーワードとなっている。
受入実績のある事業所: 依頼されたため 39%
受入実績のない事業所: 依頼されたことがない 36%
実績のある事業所が、全体の5分の1と少ないのは、インターンシップの依頼先が固定化されているためである。**実績のない事業所への働きかけが重要である。**
- 3) インターンシップのメリット (事業所サイド)
受入実績に関係なく、「**地元大学との交流**」「**外国人とのコミュニケーション**」が多く、実績のない事業所では、「**新しい視点の発見**」が3番目にあがっており、前向きな姿勢が伺える。
- 4) インターンシップのデメリット(事業所サイド)
受入実績のない事業所では、当然ながら「**受け入れのノウハウが分からない**」が一番多く、また受入実績に関係なく「**留学生の仕事能力**」「**意義の不明瞭さ**」があがっているが、これらには、大学側の十分なサポートが必要である。
- 5) 大学の役割としては、「**意義の明示**」「**意欲のある留学生の派遣**」「**終了後のフィードバック**」が多く求められており、また、**報告会の開催を望む回答は75%ある。**

－ 改善のための施策 －

1) 意義(内容)の明確化

事業所での仕事を明確にする。
留学生の仕事の能力を明確にする。
大学側の要望を明確にする。

2) 派遣制度の改善

派遣時期を固定化せず、年3回(冬休み、春休み、夏休み)とする。
受け入れ可能な事業所を、**事前に登録**する。
大学では、体験したい**留学生を登録する**(来日直後の10～11月)。
大学が、事業所と留学生の調整をする。

3) 報告会の開催

経済同友会のほうで、**毎年8月に報告会を開催**する。
(交換留学生は9月末に来日し、翌年8月に帰国)

－ 手順の流れ－

